

目次

隨筆 一九三七年～一九三八年

ふるさとを憶ふ	崔承喜（朝鮮行政）	15
季節の落書	李孝石（金融組合）	17
近感二題	玄永燮（綠旗）	20
國語面創設に就いて	無記名（毎日申報）	21
巫女踊り	宋惠任（毎日申報）	22
眼鏡(上)(下)	金素雲（毎日申報）	23
山國便り(上)(下)	韓榮淑（毎日申報）	25
「新しき土」を観て	金素雲（綠旗）	26
書齋(上)(下)	鄭人澤（毎日申報）	27
こゝろの陰翳	李孝石（金融組合）	29
『旅路』を見て感じたこと	張赫宙（毎日申報）	31
清涼里界限(1)～(4)	鄭人澤（毎日申報）	33
滿洲移民について	張赫宙（文藝首都）	35
貝殻の匙	李孝石（金融組合）	39
春香傳について	張赫宙（テアトロ）	41

樹木について 李孝石（金融組合） 45

售狗沽酒 高青（高裕燮）（畫說） 49

新協劇團『春香傳』の公演に寄せる(1)(3) 宋錫夏他（京城日報） 51

『春香傳』が見たい 崔承喜（京城日報） 52

紀行 一九一五年～一九三五年

含滿ヶ淵に迷ふ 朱耀翰（白金學報） 55

五道踏破旅行記（全35回） 李光洙（京城日報） 57

釋王寺へ(上)(中)(下) 秦瞬星（秦學文）（京城日報） 85

鮮人青年のものした『釋王寺夏籠りの記』 秦學文（京城日報） 89

一寸永興まで(一)～(七) 李光洙（京城日報） 97

山と水は媚る(一)～(四) 石薰生（李石薰）（京城日報） 103

京城行(一)～(六) 石薰生（京城日報） 109

白頭山紀行(一)～(七) 李益相（京城日報） 115

隣郡めぐり(一)～(四) 石薰生（京城日報） 131

海印寺紀行(上)(下) 張赫宙（大阪毎日新聞） 137

座談会 一九三〇年～一九三八年

朝鮮日報座談會 文藝運動（全4回） 廉想涉他（朝鮮通信） 143

崔承喜をめぐる座談會①③ 崔承喜他（大阪毎日新聞） 147

轉向者座談會（全2回） 朴英熙他（法政新聞） 153

春香傳批判座談會 柳致眞他（テアトロ） 165

社説・報告・書簡他 一九〇二年～一九三八年

〈社説〉

朝生夕死を永遠に：（『調査資料』朝鮮の言論と世相） 183

文士諸君民衆を凝視せよ（朝鮮思想通信） 187

文藝運動と朝鮮語運動（朝鮮思想通信） 188

朝鮮文學樹立と文人の使命（朝鮮思想通信） 189

朝鮮兒童讀物の最近の傾向（朝鮮思想通信） 190

朝鮮文壇人に對する希望（朝鮮思想通信） 191

朝鮮語辭典編纂會の創立（朝鮮思想通信） 192

朝鮮文化研究の高調（朝鮮通信） 193

〈報告・通信・ルポ他〉

朝鮮の同志に 鄭黑濤（進め） 195

自由！ 朴永善（自我聲） 197

自我聲！ 無記名（自我聲） 197

漢江の労働者より日本の學生へ 李大北（フロレタリア藝術） 199

朝鮮からのたより 全高麗（フロレタリア藝術） 203

感謝と不満 韓雪野（文藝戦線） 203

朝鮮労働者慰安會の記 李北滿（フロレタリア藝術） 205

我等の同志 吳興教（文藝戦線） 206

我々の演劇の暴壓 李北滿（前衛） 207

メーデーを迎へるに際して 李北滿（戦旗） 208

追放 李北滿（戦旗） 209

怒濤！ 芝公園の夜 金星波（戦旗） 211

百折不撓、所信に邁進 洪命憲（朝鮮思想通信） 213

元山の××的労働者蹶起について 金重政（戦旗） 215

朝鮮のメーデー 金斗鎔（戦旗） 217

川崎亂闘事件の真相 金斗鎔（戦旗） 223

朝鮮學生事件 李生（戦旗） 227

讚映會を××するまで 金形容（新興映畫） 231

道議戦序曲（全3回） 石蕪生（京城日報） 235

朝鮮から 閔生（戦旗） 237

史北面の小作爭議（一）（三） 李石蕪（京城日報） 239

日本の兄弟よ 金光均（戦旗） 243

殖民地から	金光均（戦旗）	247
朝鮮の運動	李均（農民）	249
平壤ゴムのゼネスト	韓鐵鎬（戦旗）	251
失業反対 詩と繪の展覽會の闘争略記	金龍濟（プロレタリア詩）	257
第二の搖籃 更生への第一歩―移民村訪問記（一）（ハ）	石薰生（京城日報）	259
朝鮮から	金××（ナツプ）	271
『農藝』の正體	李均（農民）	272
朝鮮協議會報告	日本プロレタリア文化聯盟中央協議會（プロレタリア文化	273
八・一デーを前にして！	無記名（三一・劇場ニュース）	276
朝鮮火田民の生活	鄭人澤（東洋）	277
「朝鮮の夕」は成功的に闘はれた	朴石丁（働く婦人）	280
朝鮮の夕の報告	李民友（文學新聞）	281
朝鮮協議會報告	無記名（プロレタリア文化）	283
朝鮮人聚落を行く	張赫宙（改造）	287
半島の舞姫の滯米通信	崔承喜（週刊朝日）	297
〈日記・編輯後記・追悼文〉		
反省獨語	朱耀翰（白金學報）	303
編輯だより	第三信 朱（朱耀翰）（白金學報）	303

編輯後記 無記名（自我聲） 303

編輯後記 突（金突破）（自我聲） 304

新渴講演行脚記 金熙明（前衛） 305

崔鶴松君を悼む（上）（下） 金井鎮（京城日報） 307

同志よ安かに眠れ！ 金斗鎔（プロレタリア文學） 309

〈劇評〉

『羽の生えた靴』を観て 石東岩（プロレタリア演劇） 311

東京學生藝術座の第一回公演 金波宇（テアトロ） 313

作者の意圖はどこ？ 金斗鎔（社會運動通信） 315

「斷層」の批評 金斗鎔（社會運動通信） 319

春香傳について 金承久（テアトロ） 323

春香傳 金スチャン（テアトロ） 327

驀進する朝鮮の演劇 金承久（テアトロ） 331

〈書簡〉

京釜鐵道に對する韓民の感想 無記名（都新聞） 335

内鮮兒童融合の楔子 鄭人澤他（京城日報） 337

阿部充家宛書簡 秦學文（齋藤實文書） 339

阿部充家宛書簡	崔南善（齋藤實文書）	340
阿部充家宛書簡	李光洙（齋藤實文書）	344
獄中から	金龍濟（フロレタリア文學）	345
獄中通信	金龍濟（文學新聞）	345

〈アンケート〉

我々是如何に生きて行くべきか	崔南善・李光洙（朝鮮思想通信）	347
民族の總力量を集中する實行方法	洪命憲（朝鮮思想通信）	348
朝鮮の結婚と意見（一）	李光洙（朝鮮通信）	348
懸賞小説の思ひ出、埋もれて了った作家	張赫宙（文藝通信）	348
初めて逢つた文士と當時の思ひ出	張赫宙（文藝通信）	349
僕の警句	崔承喜（文藝）	349
二月二十六日	崔承喜（中央公論）	349
諸名士に聞く	崔南善（綠旗）	349
ことし見た映畫の印象	金復鎮他（京城日報）	350

〈作文類〉

お日様とお月様（上）（下）	宋全璇（京城日報）	351
木浦見學記（上）（中）（下）	李春燮（毎日申報）	353

コドモの作文 學校から歸つて 嚴興燮 (京城日報) 356

皇軍慰問作文佳作 李元熙他 (毎日申報) 357

〈趣意書・宣言文〉

韓國新聞創設趣旨書 李人植 (都新聞) 361

「第七回全關西婦人聯合會大會代表者會」における發言 金末峰 (全關西婦人聯合會) 363

通告文 三月會他 (新人) 364

宣言 春植 (李春植) (自我聲) 364

宣言 新進會 (自我聲) 365

新幹會創立總會開催 (朝鮮思想通信) 365

聲明書 全民族的單一戰線破壞陰謀に關し全朝鮮民衆に訴ふ

新幹會東京支會々員 (文藝戰線) 366

日本プロレタリア作家同盟第五回大會へのメッセーヂ

朝鮮プロレタリア藝術同盟・中央委員會書記局 (プロレタリア文學) 368

派遣代表の挨拶 朝鮮人として 金波宇 (フロッツ) 370

宣言・決議 時局對應全鮮轉向者聯盟の結成式舉行 時局對應全鮮轉向者聯盟 (京城日報)

決議 仁川に於ても思想報國の烽火 思想報國聯盟京城支部仁川分會 (法政新聞) 373

371

〈コント〉

「履歴と宣言」 韓植（新人） 374

作品出典一覧 375

『近代朝鮮文学日本語作品集（一九〇一―一九三八）評論・随筆篇』解説 389

（目次表記について）

- ・上から作品名・著者名・（本来の名）・（掲載紙誌／掲載書）の順。
- ・連載作品で通号表記のないもの及び、通号数に誤りがある作品についてはすべて（全〇回）とした。
- ・漢字表記については原則として原本に拠った。